

沖縄県の船舶事故発生状況

～平成27年～



第十一管区海上保安本部

交通安全対策課

平成27年1月～4月

平成27年 沖縄の船舶事故発生状況速報(1～4月)

概要

船舶事故隻数及び死者・行方不明者数

- ・船舶事故隻数 34隻 (詳細は右表のとおり)
- ・死者・行方不明者数 0名

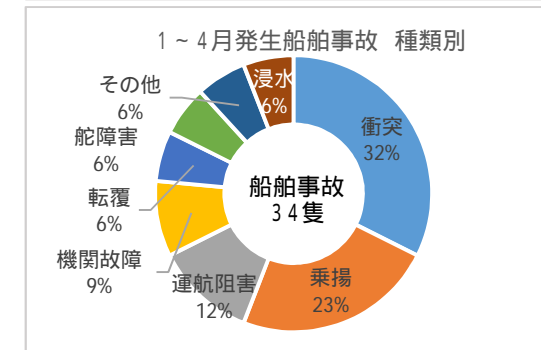
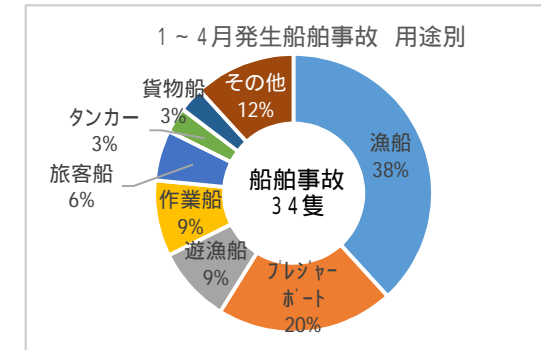
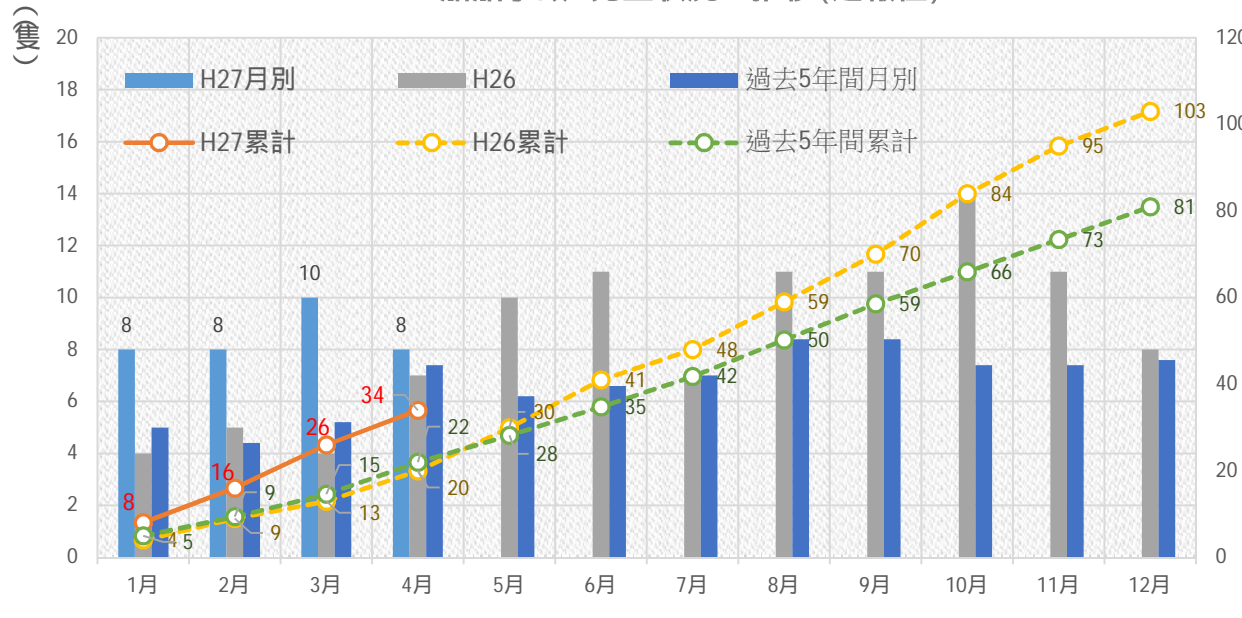
傾向及び特徴

- ・4月末現在の累計は前年比14隻増、過去5年平均比12隻増となっており、増加傾向で推移している。
- ・用途では漁船、プレジャーボート、遊漁船の小型船舶が多く、約7割を占める。
- ・事故の種類では衝突、乗揚の順で多く、これらの事故で船舶事故の半数以上を占めている。
- ・1月から4月までの船舶事故では、漁船の事故が多く、なかでも漁船の衝突が最も多く5隻発生している。

事故種類 用途	衝突	乗揚	転覆	浸水	舵障害	機関故障	運航阻害	その他	総計
漁船	5	2	1	2		1	1	1	13
プレジャーボート		1				2	3	1	7
遊漁船	2	1							3
作業船		2			1				3
旅客船	1				1				2
貨物船			1						1
タンカー		1							1
その他	3	1							4
総計	11	8	2	2	2	3	4	2	34

運航阻害……バッテリーの過放電、燃料欠乏、無人の漂流により正常な運航が出来なくなったもの。

船舶事故 発生状況の推移(速報値)



(注意:掲載のデータ等は速報値であり、確定したものではありません。)

平成27年 沖縄の小型船舶事故発生状況速報(1~4月)

概要

船舶事故隻数及び死者・行方不明者数

- ・船舶事故隻数 23隻(漁船13隻、プレジャーボート7隻、遊漁船3隻)
- ・死者・行方不明者数 0名

傾向及び特徴

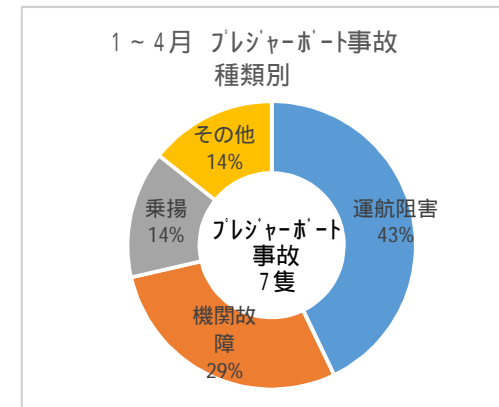
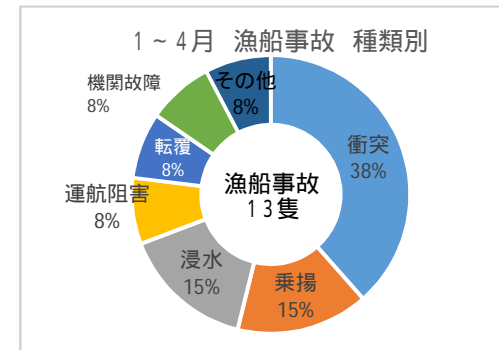
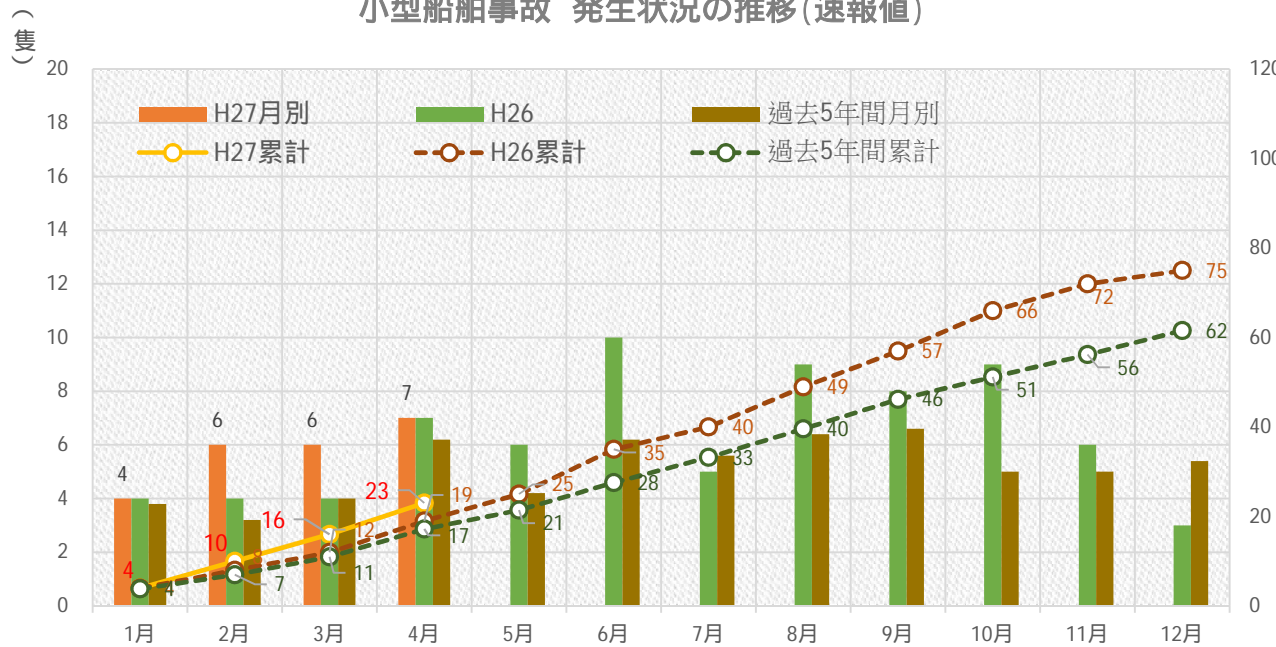
- ・4月末現在の累計は前年比4隻増、過去5年平均比6隻増となっており、増加傾向で推移している。
- ・特に漁船の発生割合が多く、小型船舶の約6割を占める。
- ・漁船の事故種類では、衝突が最も多く、次いで乗揚と浸水が多い。
- ・プレジャーボートの事故種類では、運航障害が最も多く、次に機関故障と続きこれらで約7割を占めている。

事故種類	用途								
	衝突	乗揚	転覆	浸水	舵障害	機関故障	運航障害	その他	総計
漁船	5	2	1	2		1	1	1	13
プレジャーボート		1				2	3	1	7
遊漁船	2	1							3
総計	7	4	1	2	0	3	4	2	23

小型船舶・・・漁船、プレジャーボート及び遊漁船

運航障害・・・バッテリーの過放電、燃料欠乏、無人の漂流等により正常な運航が出来なくなったもの。

小型船舶事故 発生状況の推移(速報値)



(注意:掲載のデータ等は速報値であり、確定したものではありません。)

平成27年 沖縄の小型船舶の事故概要(1~4月)

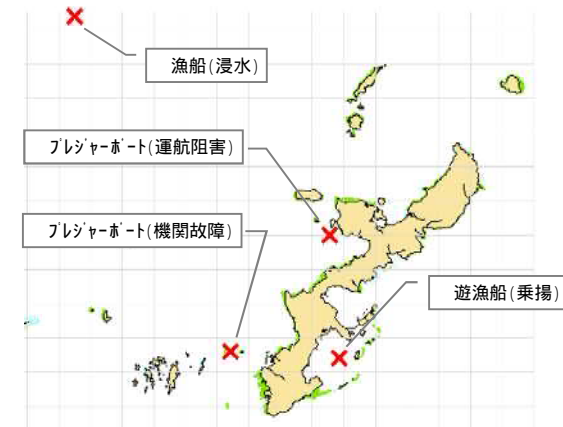
主な事故概要

番号	発生日 (事故種類)	用途 (用途細分)	事故の概要	原因、対策等
	2月20日 (機関故障)	プレジャーボート (モーターボート)	平成27年2月20日午後3時半頃、ナガンヌ島南側海域にて錨泊していたプレジャーボート(2名乗組み)がエンジンオイルの不足で航行不能になった。	エンジンオイルの不足が海難の原因であることから、発航前点検を確実に実施する。
	3月15日 (浸水)	漁船	平成27年3月15日午前6時45分頃、伊江島の北西海域にてまぐる漁を終え帰港中の漁船(2名乗組み)が、漁獲物を普段より多く積み込んでいたことにより、うねりの影響を受け、甲板に海水が打ち込みエンジンルームに浸水、その後転覆した。	漁獲物を普段より多く積み込んでおり船の乾舷が低くなっているにも関わらず、海象状況を考慮せずに通常どおり航行したことで、うねりを受け大量の海水が甲板上に打ち込んだことが浸水の原因であることから、乾舷など船体の状況と気象海象を勘案し航行する。
	4月6日 (運航阻害)	プレジャーボート (シーカヤック)	平成27年4月6日正午頃、恩納村瀬良垣ビーチ沖に錨泊していたシーカヤックのロープの結び目が解けて無人漂流した。	アンカーロープの結着が不完全であったことが漂流の原因であることから、使用しない際は陸揚げするなど、船体管理を徹底する。また、流失した場合は最寄の海上保安部署に届け出る。
	4月18日 (乗揚)	遊漁船	平成27年4月18日正午頃、金武中城湾港平曽根灯台南側海域において、錨泊して釣り中の遊漁船(6名乗組み)が、ポイント移動のため揚錨作業を行った際に、風に圧流され平曽根灯台南側のリーフに乗揚げ、浸水した。	リーフの存在は認識していたが、風潮流の影響を考慮して見張りをしていなかったことが乗揚げの原因であることから、見張りの徹底を心掛ける。また、揚錨作業時には機関を使用し、風や海潮流で圧流されないよう船位を保持することに努める。

番号 機関故障(曳航される様子)



番号 乗揚(浸水により半沈没)



(注意:掲載のデータ等は速報値であり、確定したものではない。)

平成27年5月～6月

平成27年 沖縄の船舶事故発生状況速報(5月・6月)

概要

船舶事故隻数及び死者・行方不明者数

- ・船舶事故隻数 19隻 (詳細は右表のとおり)
- ・死者・行方不明者数 0名

傾向及び特徴

- ・5月と6月の船舶事故の累計は、前年同時期と比べて2隻減。
- ・用途では漁船、プレジャーボートの小型船舶が多く、全体の約8割を占める。
- ・事故種類では衝突、運航阻害の順で多く、これらの事故が全体の約4割を占めている。

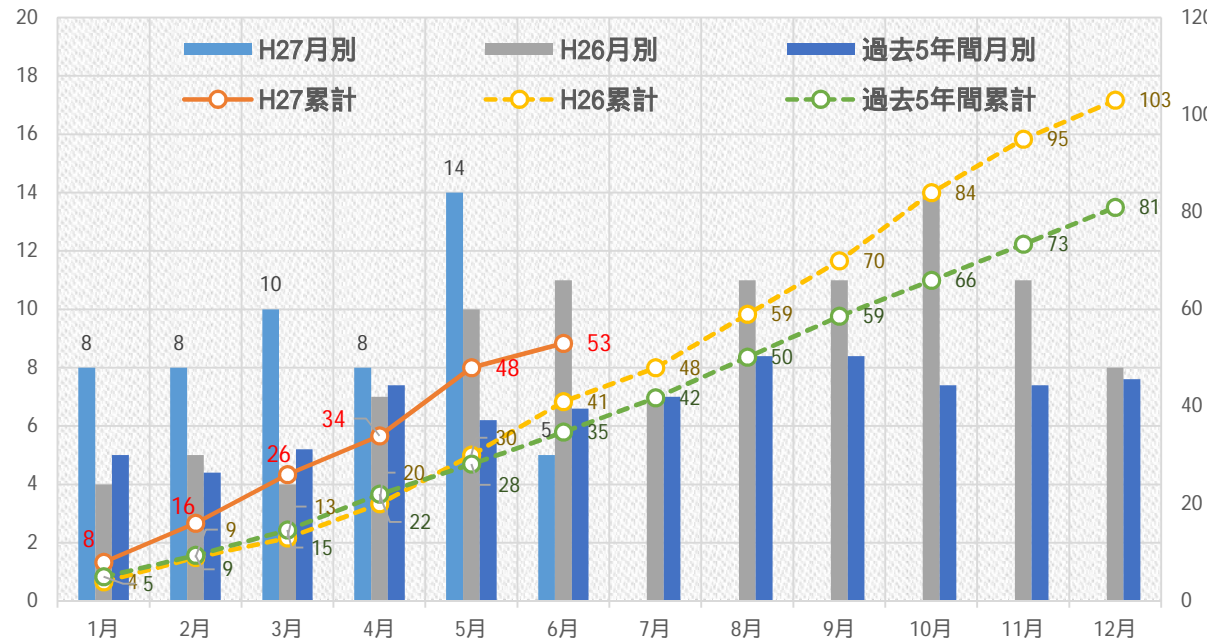
5月・6月船舶事故内訳

事故種類 用途	衝突	運航阻害	火災	機関故障	浸水	乗揚	推進器障害	その他	総計
漁船	2	1	1	1	1	1		2	9
プレジャーボート		2	1	1	1		1		6
その他	2					1	1		4
総計	4	3	2	2	2	2	2	2	19

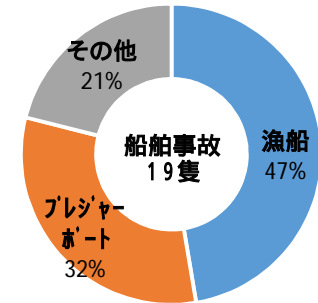
運航阻害・・・バッテリーの過放電、燃料欠乏、無人の漂流等により正常な運航が出来なくなったもの。



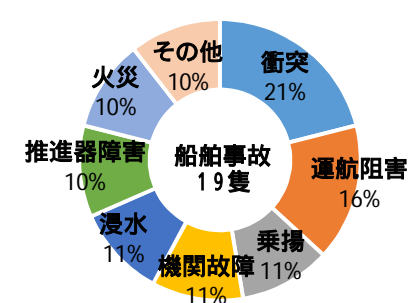
船舶事故発生状況の推移(速報値)



5月・6月船舶事故 用途別



5月・6月船舶事故 事故種類別



(注意:掲載のデータ等は速報値であり、確定したものではない。)

平成27年 沖縄の小型船舶事故発生状況速報(5月・6月)

概要

小型船舶事故隻数及び死者・行方不明者数

- ・小型船舶事故隻数 15隻(漁船9隻、プレジャーボート6隻)
- ・死者・行方不明者数 0名

傾向及び特徴

- ・5月と6月の小型船舶事故の累計は、前年同時期と比べて1隻減。
- ・特に漁船の発生割合が多く、小型船舶事故の6割を占める。
- ・漁船の事故種類では、衝突が最も多い。
- ・プレジャーボートの事故種類では、運航障害が最も多い。

5月・6月小型船舶事故内訳

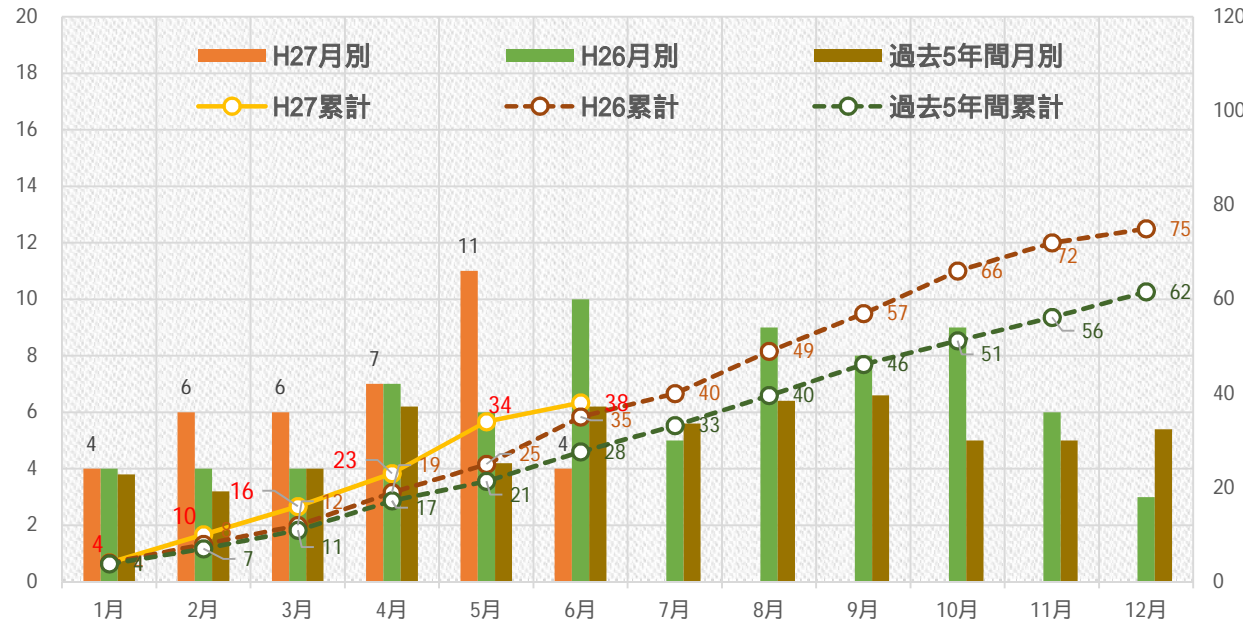
事故種類	運航障害	衝突	浸水	機関故障	火災	乗揚	推進器障害	その他	総計
用途									
漁船	1	2	1	1	1	1		2	9
プレジャーボート	2		1	1	1		1		6
総計	3	2	2	2	2	1	1	2	15

小型船舶・・・漁船、プレジャーボート及び遊漁船

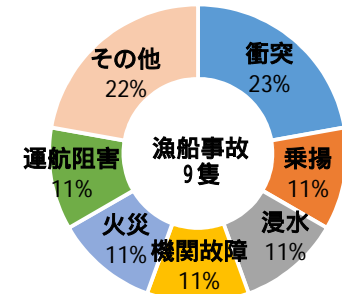
運航障害・・・バッテリーの過放電、燃料欠乏、無人の漂流等により正常な運航が出来なくなったもの。

(隻)

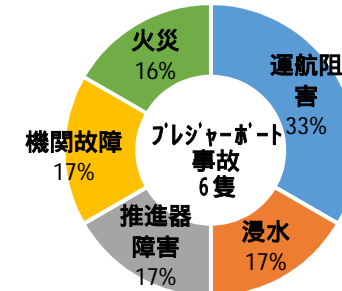
小型船舶事故の発生状況の推移(速報値)



5月・6月漁船事故 事故種類別



5月・6月プレジャーボート事故 事故種類別



(注意:掲載のデータ等は速報値であり、確定したものではない。)

平成27年 沖縄の小型船舶の事故概要(5月・6月)

平成27年7月
第十一管区海上保安本部交通企画課

主な事故概要

番号	発生日 (事故種類)	用途 (用途細分)	事故の概要	原因、対策等
	5月5日 (乗揚)	漁船	中城港内で釣りを終え帰港中のところ、知名埼付近のリーフに乗揚げた。	リーフの存在を認識していなかったことが乗揚げの原因であることから、事前の水路調査を励行する。
	5月12日 (浸水)	漁船	池間漁港内において係留していた漁船が、台風6号の強風と波浪の影響を受け、浸水し沈没した。	荒天対策を行っていたものの、対策が不十分であったことが浸水の原因であることから、台風時の係留等安全対策を徹底する。
	5月19日 (推進器障害)	プレジャーボート (水上オートバイ)	うるま市海中道路前面海域にて、バナナボートを牽引し遊走中の水上オートバイが、曳航ロープを推進器に絡ませて航行不能になり漂流した。	曳航ロープの状況を確認せず不用意にバナナボートに近づいたことが、曳航ロープが推進器に絡んだ原因であることから、曳航ロープの監視を確実に行う。
	6月7日 (運航阻害)	プレジャーボート (モーターボート)	恩納村谷茶の船揚げ場に係留していたプレジャーボートの係留索が解け、無人漂流した。	係留索の結着が不完全であったことが流出の原因であることから、係留ロープの点検等の船体管理を徹底する。

番号 漁船(リーフに乗揚げて、その後潮が引いた様子)



番号 漁船(浸水し沈没している様子)



(注意:掲載のデータ等は速報値であり、確定したものではない。)

平成27年7月～9月

平成27年 沖縄の船舶事故発生状況速報(7月～9月)

平成27年10月
第十一管区海上保安本部交通企画課

(注意:掲載のデータ等は速報値であり、確定したものではない。)

概要

船舶事故隻数及び死者・行方不明者数

- ・船舶事故隻数 33隻 (詳細は右表のとおり)
- ・死者・行方不明者数 1名

傾向及び特徴

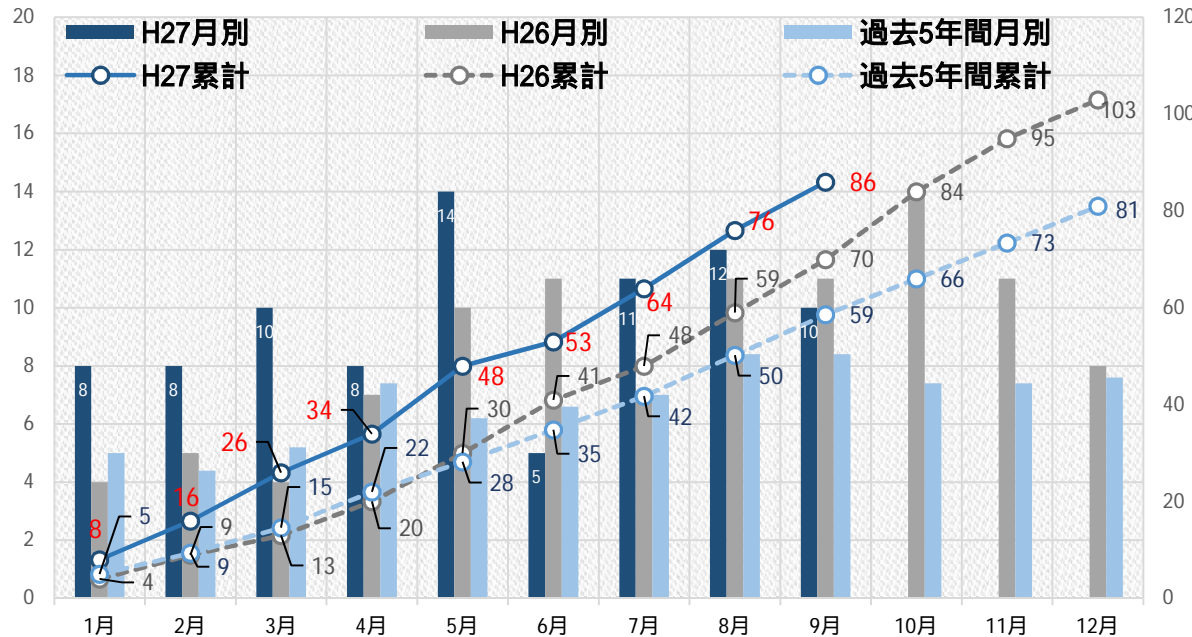
- ・7月～9月の船舶事故の累計は、前年同時期と比べて4隻増。
- ・7月～9月に発生した船舶事故33隻のうち、「漁船」と「プレジャーボート」の事故がともに12隻で最も多く、これらで全体の約7割を占める。
- ・事故種類では「浸水」「機関故障」の順で多く、これらの事故が全体の約4割を占めている。

7月～9月船舶事故内訳

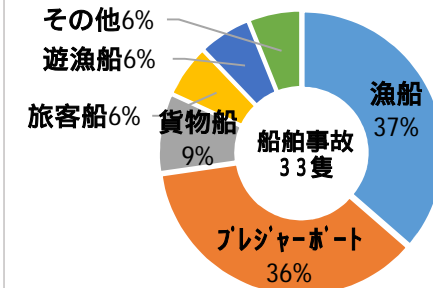
事故種類 用途	浸水	機関故障	衝突	乗揚	運航阻害	安全阻害	転覆	推進器障害	舵障害	その他	総計
漁船	2	2	2	3	1		1			1	12
プレジャーボート	3	2		1	1	2		1	1	1	12
貨物船		2	1								3
旅客船	2										2
遊漁船	1			1							2
その他			2								2
総計	8	6	5	5	2	2	1	1	1	2	33

運航阻害…バッテリーの過放電、燃料欠乏、無人の漂流等により正常な運航が出来なくなったもの。
安全阻害…転覆に至らない船体傾斜、走錨及び荒天難航をいう。

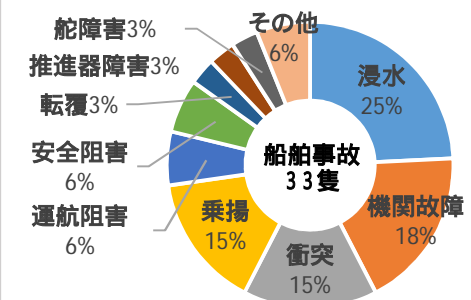
船舶事故発生状況の推移(速報値)



7月～9月船舶事故 用途別



7月～9月船舶事故 事故種類別



平成27年 沖縄の小型船舶事故発生状況速報(7月～9月)

平成27年10月
第十一管区海上保安本部交通企画課

(注意:掲載のデータ等は速報値であり、確定したものではない。)

概要

小型船舶事故隻数及び死者・行方不明者数

- ・小型船舶事故隻数 26隻(漁船12隻、プレジャーボート12隻、遊漁船2隻)
- ・死者・行方不明者数 1名

傾向及び特徴

- ・7月～9月の小型船舶事故の累計は、前年同時期(22隻)と比べて4隻増。
- ・漁船とプレジャーボートの事故が各々12隻で最も多い。
- ・漁船の事故種類では、「乗揚」が最も多い。
- ・プレジャーボートの事故種類では、「浸水」が最も多い。

小型船舶・・・漁船、プレジャーボート及び遊漁船

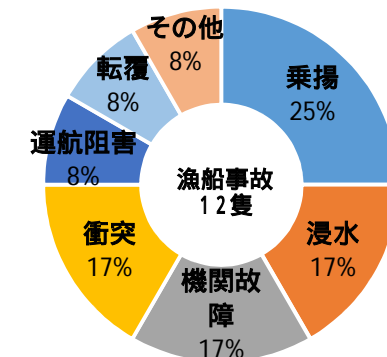
運航阻害・・・バッテリーの過放電、燃料欠乏、無人の漂流等により正常な運航が出来なくなったもの。

安全阻害・・・転覆に至らない船体傾斜、走錨及び荒天難航をいう。

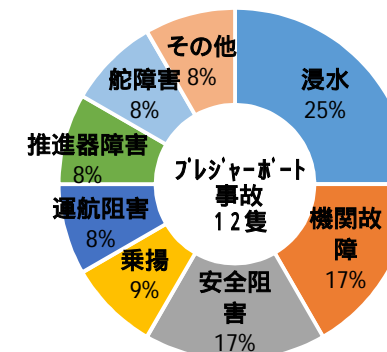
7月～9月小型船舶事故内訳

事故種類 用途	浸水	乗揚	機関故障	衝突	運航阻害	安全阻害	転覆	推進器障害	舵障害	その他	総計
漁船	2	3	2	2	1		1			1	12
プレジャーボート	3	1	2		1	2		1	1	1	12
遊漁船	1	1									2
総計	6	5	4	2	2	2	1	1	1	2	26

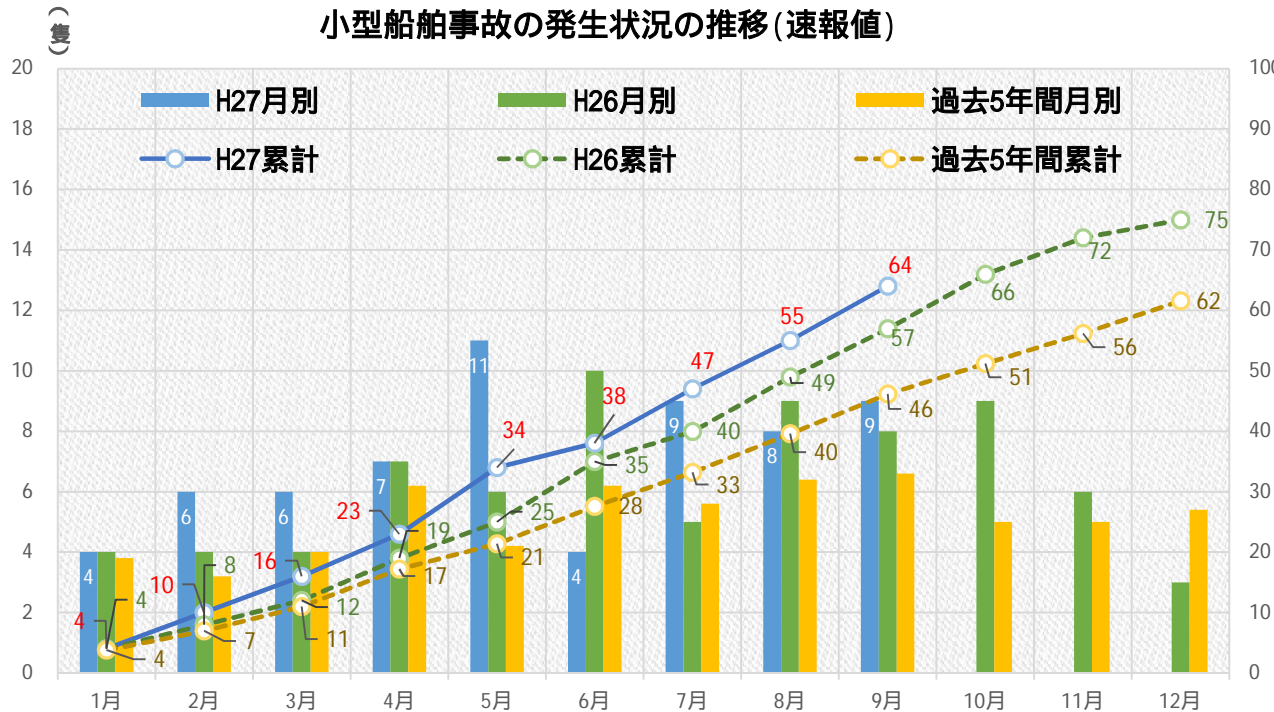
7月～9月 漁船事故 事故種類別



7月～9月 プレジャーボート海難



小型船舶事故の発生状況の推移(速報値)



平成27年 沖縄の小型船舶の事故概要(7月～9月)

平成27年10月
第十一管区海上保安本部交通企画課

(注意:掲載のデータ等は速報値であり、確定したものではない。)

主な事故概要

番号	発生日 (事故種類)	用途 (用途細分)	事故の概要	原因、対策等
	8月16日 (乗揚)	漁船	2人乗組みの漁船が、漁を終えて帰港中、渡名喜島東側海岸沿いの岩場に乗揚げた。	漁の疲労から2人同時に仮眠をとっていたことが原因であることから、交代で仮眠をとる等の対策をとり、確実に見張りを行う。
	9月6日 (推進器障害)	プレジャーボート (水上オートバイ)	古宇利島東側海域にて、マープル(水上オートバイ等で曳航するマリンレジャー用の浮体)を曳航し遊走していたところ、曳航ロープを推進器に絡ませて航行不能になり漂流した。	曳航ロープの状況の確認を怠り、曳航ロープが推進器に絡んだことが原因であることから、曳航ロープの監視を確実にを行う。
	9月12日 (運航障害)	プレジャーボート (手漕ぎボート)	釣りを終えて手漕ぎボートを砂浜に引揚げ保管していたところ、ボートから目を離している間に海上に流出し、無人漂流した。	ボートの流出防止策を講じていなかったことが流出の原因であることから、船体の管理を徹底する。
	9月24日 (機関故障)	プレジャーボート (モーターボート)	エンジンを停止し錨泊して釣りをを行い、釣り場移動のためエンジンを起動しようとしたところ、エンジンが起動せず航行不能となった。	事故の詳細については、現在調査中であるが、発航前の点検を実施していなかったことが一因であると考えられることから、発航前点検を励行する。

番号 漁船(事故の状況)



番号 プレジャーボート(海上保安庁に曳航救助されている状況)



平成27年10月～12月

平成27年 沖縄の船舶事故発生状況速報(10月~12月) 平成28年1月 第十一管区海上保安本部交通企画課

(注意:掲載のデータ等は速報値であり、確定したものではない。)

概要

船舶事故隻数及び死者・行方不明者数

- ・船舶事故隻数 27隻 (詳細は右表のとおり)
- ・死者・行方不明者数 0名

傾向及び特徴

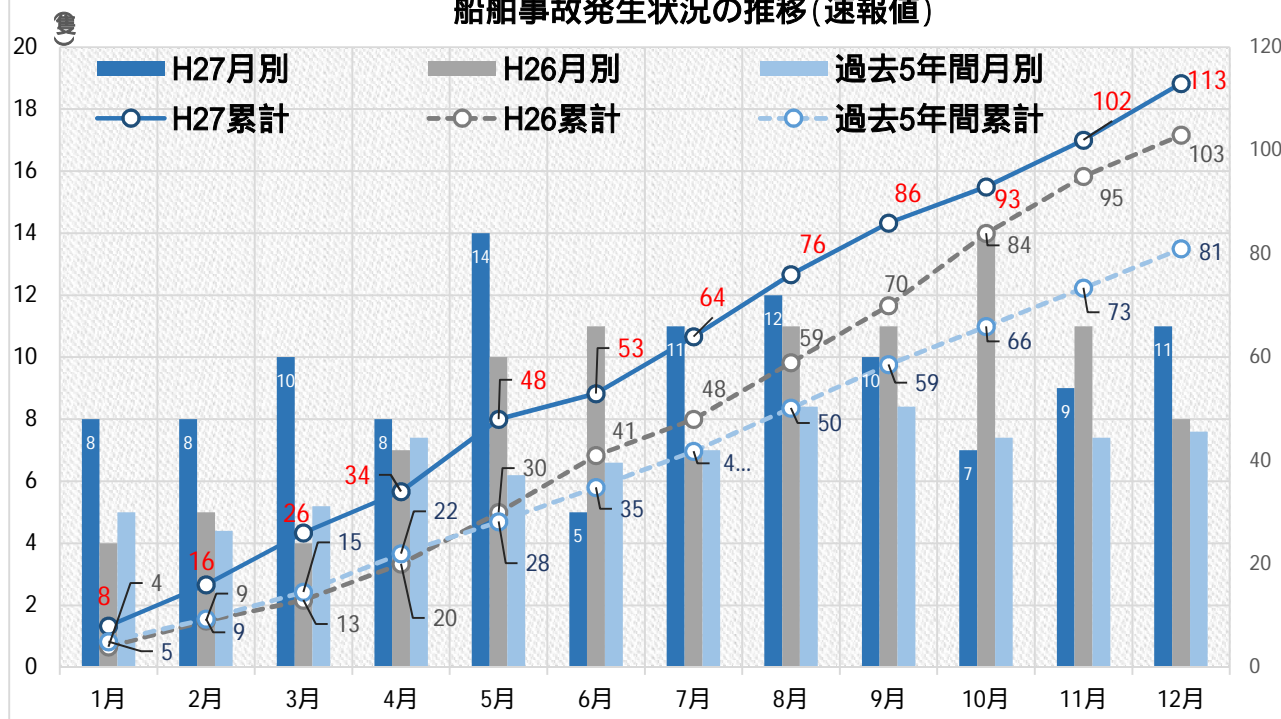
- ・10月~12月の船舶事故の累計は、前年同時期と比べて6隻減。
- ・10月~12月に発生した船舶事故は、プレジャーボートが11隻で最も多く、次いで漁船が7隻となっており、これらで全体の約7割を占める。
- ・事故種類では「衝突」「機関故障」の順で多く発生しており、プレジャーボートの「機関故障」事故が5隻で最も多い。

運航阻害・・・バッテリーの過放電、燃料欠乏、無人の漂流等により正常な運航が出来なくなったもの。
安全阻害・・・転覆に至らない船体傾斜、走錨及び荒天難航をいう。

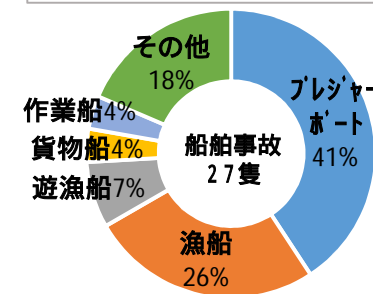
10月~12月船舶事故内訳

用途	事故種類							総計
	衝突	機関故障	乗揚	運航阻害	浸水	転覆	その他	
プレジャーボート	1	5	2	2			1	11
漁船	3		2	1			1	7
遊漁船			1		1			2
貨物船		1						1
作業船					1			1
その他	3			1		1		5
総計	7	6	5	4	2	1	2	27

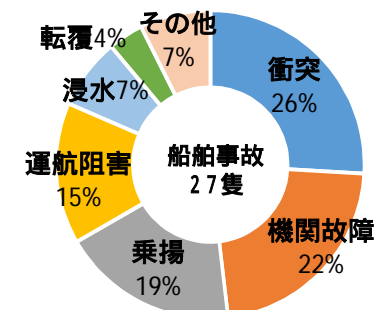
船舶事故発生状況の推移(速報値)



10月~12月船舶事故 用途別



10月~12月船舶事故 事故種類別



平成27年 沖縄の小型船舶事故発生状況速報(10月～12月)

平成28年1月
第十一管区海上保安本部交通企画課

(注意:掲載のデータ等は速報値であり、確定したものではない。)

概要

小型船舶事故隻数及び死者・行方不明者数

- ・小型船舶事故隻数 20隻(プレジャーボート11隻、漁船7隻、遊漁船2隻)
- ・死者・行方不明者数 0名

傾向及び特徴

- ・10月～12月の小型船舶事故の累計は、前年同時期(20隻)と同数。
- ・プレジャーボートの事故が11隻と最も多く発生しており、全体の約5割を占める。
- ・プレジャーボートの事故種類では、「機関故障」が最も多い。
- ・漁船の事故種類では、「衝突」が最も多い。

小型船舶・・・漁船、プレジャーボート及び遊漁船

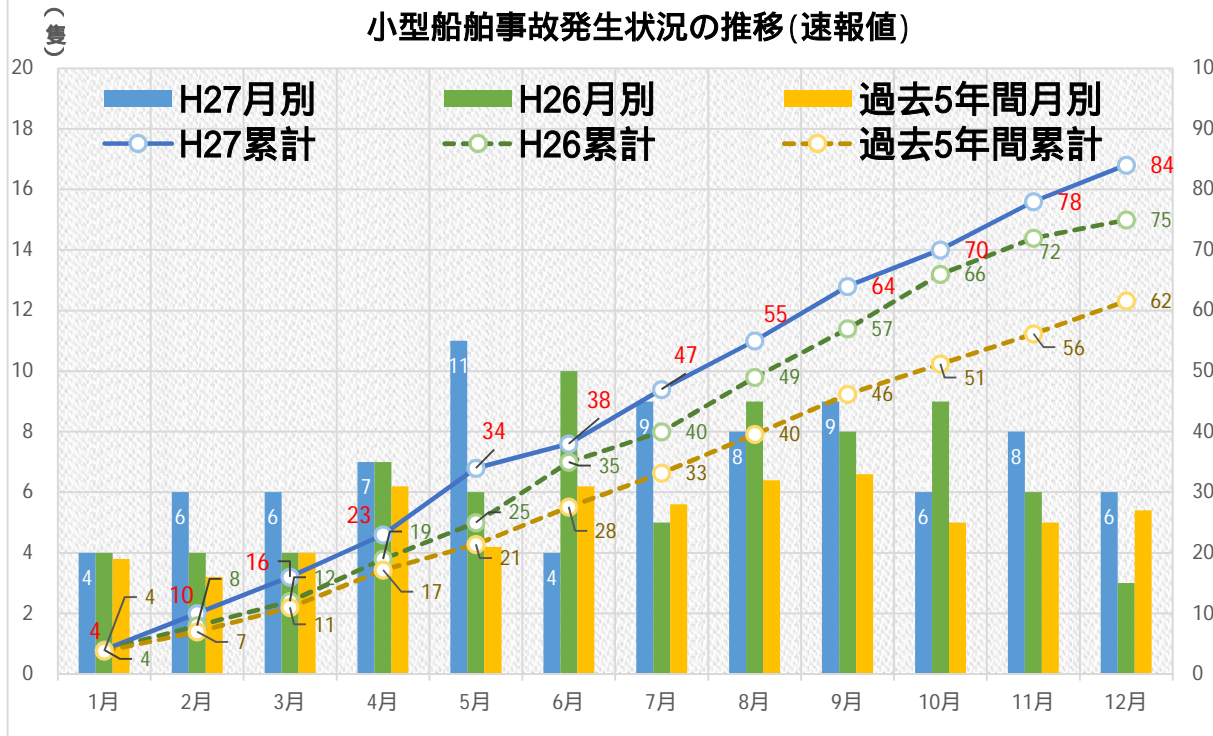
運航阻害・・・バッテリーの過放電、燃料欠乏、無人の漂流等により正常な運航が出来なくなったもの。

安全阻害・・・転覆に至らない船体傾斜、走錨及び荒天難航をいう。

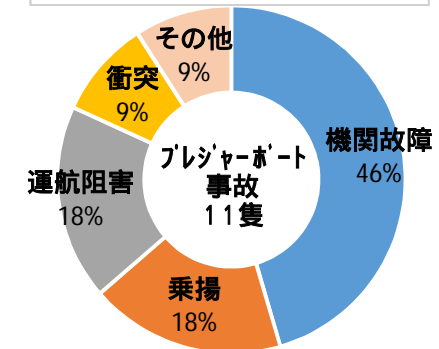
10月～12月小型船舶事故内訳

用途 \ 事故種類	乗揚	機関故障	衝突	運航阻害	浸水	その他	総計
プレジャーボート	2	5	1	2		1	11
漁船	2		3	1		1	7
遊漁船	1				1		2
総計	5	5	4	3	1	2	20

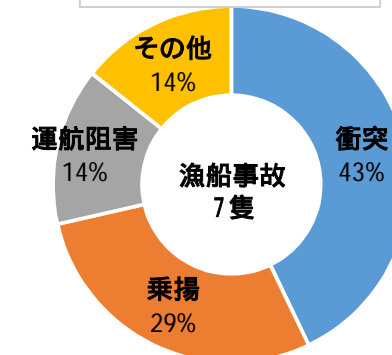
小型船舶事故発生状況の推移(速報値)



10月～12月 プレジャーボート事故



10月～12月 漁船事故



平成27年 沖縄の小型船舶の事故概要(10月～12月)

平成28年1月
第十一管区海上保安本部交通企画課

(注意:掲載のデータ等は速報値であり、確定したものではない。)

主な事故概要

番号	発生日 (事故種類)	用途 (用途細分)	事故の概要	原因、対策等
	10月4日 (機関故障)	プレジャーボート (モーターボート)	エンジンを停止し漂泊状態で釣りをを行い、釣り場移動のためエンジンを起動しようとしたところ、イグニッションキーが回らず航行不能となった。	以前から同様の不具合があったにも関わらず、点検・整備を行わなかったことが原因であることから、日常の整備や発航前点検を励行する。
	10月27日 (乗揚)	漁船	漁を行うため漁場へ向け舵を自動操舵として航行していたところ、浅瀬に乗揚げた。	舵を自動操舵にして後部甲板で作業を行い、見張りを行わなかったことが原因であることから、いかなる状況においても適切に見張りを行う。
	11月8日 (運航阻害)	プレジャーボート (シーカヤック)	航行中に横風を受けてバランスを崩し海中転落した後、シーカヤックに這い上がることが出来ず、シーカヤックは無人漂流した。	シーカヤックの操船経験が浅く技能が不足していたことが原因であることから、海に出る前に操船技能を習得する。
	12月25日 (浸水)	遊漁船	漁港内に係留していたが、干潮時に船体が岸壁の一部に引っかかり、潮位が上昇し船体が傾斜した際に海水が船内に浸水し沈没した。	潮汐等を考慮せずに係留していたことが原因であることから、防舷物を置くなどの対策をとり、気象海象や潮汐に見合った適切な係留を行う。

番号 漁船(浅瀬に乗揚げ、船底の破口から油が流出している状況)



番号 遊漁船(クレーン車により引揚げている状況)

